

「個別最適な学び」と「働き方改革」を実現する手法の一つとして漢検を活用

新宿区立西新宿小学校 (所在地:東京都)



学校長 長井 満敏 先生

【プロフィール】

清瀬市教育委員会教育部参事などを歴任し、2020年より現職。「学びを子どもの手に返す」ことを目指し、子どもたちが主体的に学び、自らの興味や関心に応じて学習できる環境や、子どもたちを支える教員も主体的に考え、対話し、深く考えることができる環境づくりを目指す。

学校改革の取り組みについて

・学ぶことは、本来的に楽しいものである。教員が教え込むのではなく、**学びの主体者である子どもに何をどのように学ぶかを委ねる**ことが、これからの教育に求められることである。

・一律の学びではなく、**子どもたちが学びたいものを選択・決定・追求し、主体的に学習できる環境を学校全体として整備**するために、2023年度より以下の改革を推進している。

- 一律の宿題の廃止
- 单元ごとのテストの廃止
- 学期ごとの通知表の廃止

・子どもたち自身が学びたいことや成長に必要なことを追求し、取り組んだ内容を提出する『**自学ノート**』や、個人面談の回数を増やすことで、**学習内容を振り返る機会を保障**している。

・2025年度以降は、さらに子どもたちが自分の興味・関心に応じた学習をし、主体的に学ぶ力を育む環境を整えるため、1時間目に子どもたちが「**好きな場所で・好きな学習をできる時間**」を設ける予定。

漢検実施の概要

■対象

西新宿小学校の児童

■実施時期

6月、10月、1月（年間計3回実施）

■受検者数(2024年度)

6月検定66名、10月検定45名、1月検定42名

■教員の関わり方

漢字に興味がある子どもに対して、漢検協会提供の無償教材を案内し、子どもが主体的に学習できる環境を整えた。

子どもの主体性を育む教員の働き方

■課題意識

教員の「**働き方改革**」が推進される中で**教育活動の精選や削減に伴い、教員の「やりがい」も同時に希薄になることを懸念**していた。

このような状況の中で、子どもたちだけでなく、**教員も「面白さ」や「やりがい」を感じながら、教員の得意や興味・関心を生かして主体的に取り組めるプロジェクトを模索**していた。

■課題解決に向けた組織マネジメントの実践

教員が**仕事の「おもしろさ」や「やりがい」を感じながら成長できるように、校務分掌をセクション型からプロジェクト型へ変更**した。子どもの主体性を育む学校経営に必要なプロジェクト(校務)を洗い出し、**教員自身に担当するプロジェクトを選択させ、教員同士で協議のもと決めるようにした**。そのプロジェクトの一つとして、漢検を活用した主体性を育む学習環境の整備と充実を設定した。**取り組むべきプロジェクトを明確にし、教員の得意や興味・関心に応じた自己選択・決定させる環境をつくる**ことで、教員一人ひとりが責任とやりがいをもって仕事に取り組む姿が見られるようになっている。

漢検導入の意義・メリット

■子どもたちにとって

漢検に向けた学習は、**特定の学年や単元に縛られず、子どもたち一人ひとりが自らの学習目標を選択・決定するプロセスを経るため、自己効力感を高めながら主体的に学習する姿勢を身につけられる**。また、**習熟度に応じた「個別最適な学び」を進められる**。

■教員にとって

子どもたちの**主体性を育むため、具体的にどのようなことをしたらよいかを考える機会**になる。また、子どもたちの**成長を客観的な方法で実感することができ**るため、**教員のやりがい**にもつながる。